

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	34 / 2014 / 28 - 42 (再編集版)
タイトル	【再編集復刻版】 野内川流域の生物(第一報)
著 者 名	野の会 (再編集 石郷岡總一郎)

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

[illegible]

みちのく有料道路建設反対資料

野内川流域の生物 第一報

[illegible]

序

結成してまだ半年たらずの野の会の最初の公式な活動がはからずも自然保護運動となってしまう。そして、その提出した資料の影響を見て、資料の重要性を再確認したmalıdır。我々の反対の原動力には、この地域への愛着と仲間としてきた生物たちへのうしろめたさとの地域は我々しか調査していないんだ。という、ぶらいどと責任感があるのです。

陳情の中の反対資料としていままでの記録をまとめてみて、あらためて野内川流域の生物の豊富さに驚きます。あんな都市のすぐそばにあり、あれほどの伐採などの迫害にもたえながら生きている動物たち。これこそ、日本における鳥獣の縮図かもしれません。けれどもこれいじょうの破壊は命取りです。「もうやめてくれ」これが我々のいつわらざるきもちです。

まだまだこの地域の調査は完成の域にはいっていません。しかし、ゆうちょうなことはいっておれなくなりました。来年度中に一応の物を打ち出さなくてはならない。そのための資料としてこの「野内川流域の生物、第一報」をまとめました。生物の種類はもっともとふえるはずです。植物は参考として利用してください。まだ詳しい調査はしていないのです。

この地域を調査しておられる方でこの資料に欠けている種がありましたら、ご一報くだされば幸いとおもいます。

野の会会長 田中洋一

野内川流域の生物相

[1] 植物

植物は本格的な調査はおこなっていないので、基本をあげておく。全般的にみずなら、かえで類、ちのき、さわしばなどが目立つ。またほおのき、くるみ類、ぶな、やなぎ類、せんのき、まんさく類、きぶし、ひば(ひのきあすなろ)などが目につく。ぶなは青森県での水平分布¹は海岸からではあるが、現在、青森県では県民の森、萱野高原(4～500m)あたりから上でないといられないが、滝沢では標高150mぐらいからみることができる。市内でもっとも低いところに自生しているぶなであろう。ひばは青森市内では眺望山地区など中山山脈に多いことはここを除いてはほとんど目につかない。しだ、こけ類も豊富な森と水を反映して多い。

珍しい物では、ほていらんなどのらん科の植物。みずばしょうは北方のため低地よりある。つつじは二十数種とその数は多い。折紙山の東にはしゃくなげの群落がある。

ふき、わらびなどの山菜も豊富で土地の人がよく山に入って採っている。

1 「垂直分布」の誤記？

〔Ⅱ〕哺乳類相

現在までに確認されている16種(りすと参照)の中でめだつものはひめひみず、おおあぶらこうもり(亜種名くろ～)、たぬき、きつね、にほんかもしかである。

ひめひみずは、日本特産種であり、日本中部ではほぼ1000m以上の高山にのみ産する。原始的な遺存種で学術上貴重な種類。今回、青森市市街地に近い海拔わずか150mの地点から採集されたのは注目できる。青森県は本種の分布北限である。

おおあぶらこうもりは日本では極めて稀で北海道から一頭、対馬から二頭採集されていたのにきすぎない。本州では滝沢でのみ生息が確認されたことになる。くろおおあぶらこうもりとしては北海道につぐ二頭めになる。また今までの採集例が冬季なのに滝沢では夏季なのも特筆すべきことである。(国立科学博物館動物研究部 今泉吉典博士、吉行端子技官同定)

たぬき、きつねは大型狩猟獣として年々数が減っている種で、貴重な物である。この地域の食物連鎖の最高位の補食者となる。

にほんかもしかは特別天然記念物として知られている。台湾に近縁のたいわんかもしかがいるが、日本特産種としてみられている。日本中部ではほぼ1000mいじょうの高山に見られる種だが、分布北限の青森県ではきわめて低地にみられる。当地では二度目撃していることや足跡、ふんなどからかなりの個体数が生息しているようである。ここでは高度100mたらずの市内から10kmほどのところで確認されている。全国的にみても大都市(25万)からもっとも近いところに生息している群といえよう。

〔Ⅲ〕鳥相

現在69種確認されているがまだ普通種で確認されていないのもあるので今後みつかれば80種いじょうとなるだろう。やはり特筆すべきことはかわせみ科3種がそろっているということだろう。このうちあかしょうびんはよく繁茂した森に渡来するもので森の生命を保証してくれる。(もっとも伐採がこれいじょう進まなければだが)全国的にいたかわせみも姿を消してきている。ましてや現在、山奥いがいでやませみのいるところは数少ないであろう。野内川がいかにきれいで環境のよいところなのかをかわせみ科の鳥が証明している。その他、かわがらす、せきれい科、かも類など水に住む鳥も多い。

きつつき科もおおあかげら、ありすい(いる可能性は濃厚)を残し本種²にいるものはそろっている。この点でもこの地域の森林の豊富さがうかがわれる。また森林性のひたき科の鳥も種類が多い。

特筆すべきことだが1970年6月にさんこうちょうを確認している。本県での分布はきわめて少ないようである。このほかでは1974、75年の春にわしの観察がある。飛行時の姿からいぬわし³と推定される。早めにしっかりと証拠をつかみたい。(詳しい説明は後記P11参照)[なおサンコウチョウは74年夏に鳴き声での確認もある]

2 「本州」の誤りか？

3 原本に二重下線あり。

[Ⅳ] 昆虫相

確認されている種は採集者の好みによって左右されていて全般的なものを把握するにはいたっていない。目立つところではむかしとんぼ、ほそあかがねおさむし、おおちやいろはなむぐりなどがある。滝沢ではげんじぼたるの生息が確認されている。一般には岩手県を北限とされている。日本における北限は滝沢であることもかんがえられ保護の手がさしのべられることを期待する。蝶では山地性の珍蝶といわれるふじみどりしじみが得られていることは注意をひくことである。また亜高山蝶といわれるきべりたては、えるたてはも確認されている。迷蝶としてあつかわれているが標高から考えてこれほど低いところ(100m以下)までおりてくるのも珍しいことであろう。かみきりむしの種類の多いことは豊富な森が残っていることを証明している。

野内川流域は非常によく自然が残っているところと伐採され蝶相が完全にくづれたところとの両極端があり昆虫相もそれに大きく影響されている。一般に野内川は河川の流域下における温帯広葉樹林の昆虫相を顕著に示している。河川流域であるため湿潤を好まない種は発生していないし、河川によく生育する草木に発生する種は多い。

[Ⅴ] 野内川相

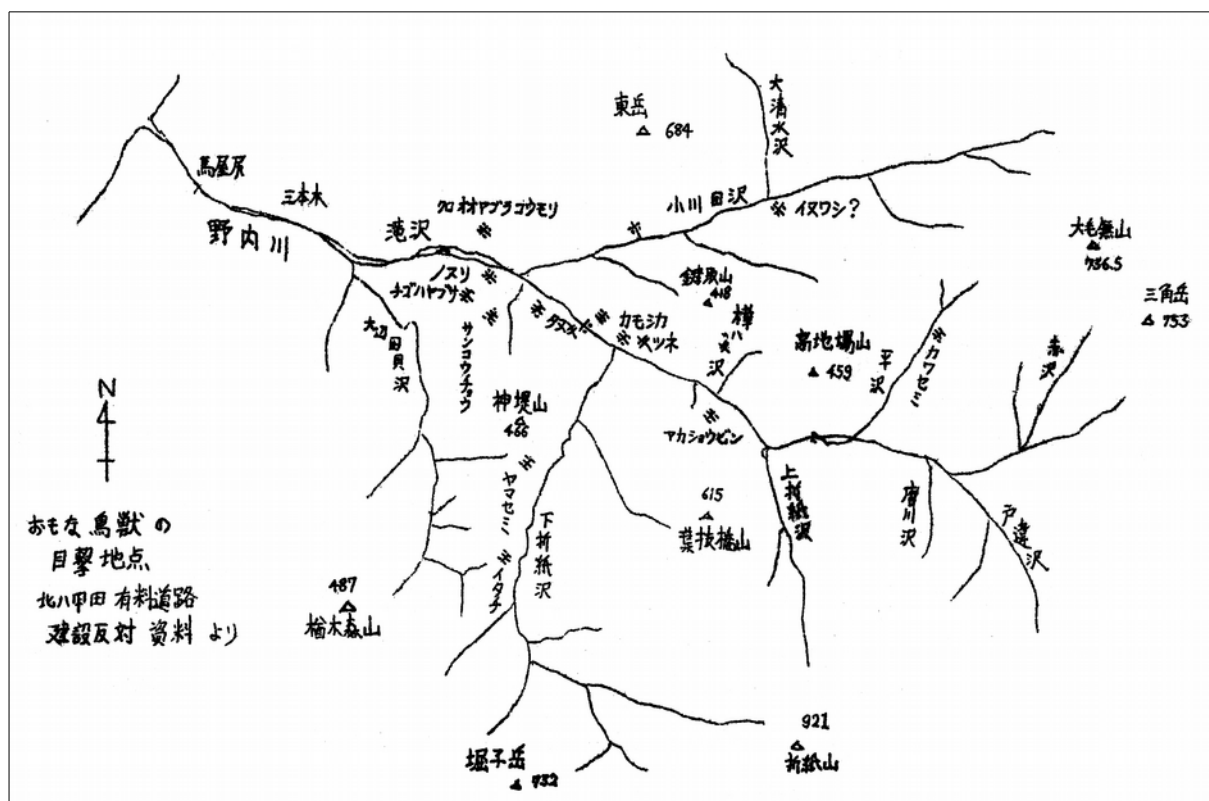
(1) 野内川概説

「第三系」によって構成されている山岳地帯にその源を発している。青森市においてはもっとも古い発生歴を有し、流路に重大な変更がなかったとみられる。扇状に広がる涵養河川である。小川目沢合流点あたりより伏流水がある。第三系の山は鉾山を持ちこのため底質に影響している。滝沢においての重金属は Cd 0.5(ppm)、Zn 170、Pb 70、Cu 40、Hg 1.5である。野内川は流域面積 74.4Km²、幹川の長さ16.0km、支川の数8、支川の長さ27.2kmとされている。水質はPH値 6.8～8.8 で中性である。硫酸イオンも 15～19ppm で全国各河川と比較してさほど多いわけではない。生活環境基準ではほとんど1級に近い水質をもち特に小川目沢合流点の水量は 1.6t/sec で都市用水源としての条件を具備している。

(2) 水生昆虫による野内川の水質判定 [Beck-Tsuda法]

野内川の上流から7点にわけ採集した底生動物を同定し「汚濁非認種(A)」と「汚濁耐認種(B)」の2種にわけ。(りすと参照、Bが少ないのは一目瞭然) 2A+B をもって汚濁の生物指数「biotic index (β)」とする。ちなみにその階数は $2A+B > 30 = 1$: きれい、 $15 \sim 29 = 2$: ややきれい、 $6 \sim 14 = 3$: かなりきたない、 $0 \sim 5 = 4$: 非常にきたないとなっている。

これによる判定は上流から下流まですべて1となった。(ダム下のポイントは水質判定にはむかないので除いて考案する)この水質判定によっても野内川はきれいな川であることがあきらかである。



野内川流域の動物

[哺乳類]⁴

- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| (1) ひめひみず | (7) うさぎこうもり | (13) どぶねずみ |
| (2) ひみず | (8) のうさぎ | (14) たぬき |
| (3) もぐら | (9) にほんりす | (15) きつね |
| (4) きくがしらこうもり | (10) あかねずみ | (16) ほんどいたち |
| (5) こきくがしらこうもり | (11) ひめねずみ | (17) にほんかもしか |
| (6) おおあぶらこうもり | (12) くまねずみ | |

※ 哺乳類は一年たらずの調査であるので今後の□□⁵でもっと確認されるだろう。たとえば、聞き込みによるとあなぐま、むささび、てんなどは生息はほぼ確実である。

[ハ虫類]

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| (1) まむし | (4) あおだいしょう | (7) かなへび |
| (2) しまへび | (5) じむぐり | |
| (3) やまかがし | (6) とかげ | |

4 原本では、「(13)」が重複している。

5 例えば「調査」などの言葉が抜けていると推定する。

〔両生類〕

- | | | |
|-------------|-----------------|----------------|
| (1) つちがえる | (4) かじかがえる | (7) やまあかがえる |
| (2) とのさまがえる | (5) しゅれーげるあおがえる | (8) とうほくさんしょうお |
| (3) ひきがえる | (6) あまがえる | (9) はこねさんしょうお |

〔魚 類〕

- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| (1) すなやつめ | (6) どじょう | (11) まはぜ |
| (2) えぞいわな | (7) めだか | (12) ちちぶ |
| (3) あゆ | (8) とみよ | (13) しろうお |
| (4) うぐい | (9) びりんび | (14) かじか |
| (5) ぎんぶな | (10) うきごり | (15) あさひあなはぜ |

☆ 魚類は本格的調査をしていないので正確な物は今後の調査を待たなければならない。
採集方法はつり、てあみ、とあみによる。

野内川流域の鳥類

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| 「う科」 | (13) めだいちどり | 「かわせみ科」 |
| (1) ひめう | 「しぎ科」 | (25) やませみ |
| 「がんかも科」 | (14) いそしぎ | (26) かわせみ |
| (2) かるがも | (15) おおじしぎ | (27) あかしょうびん |
| (3) こがも | 「かもめ科」 | 「きつつき科」 |
| (4) きんくろはじろ | (16) ゆりかもめ | (28) あおげら |
| 「わしたか科」 | (17) せぐろかもめ | (29) あかげら |
| (5) とび | (18) おおせぐろかもめ | (30) こげら |
| (6) のすり | (19) うみねこ | 「ひばり科」 |
| (7) いぬわし ?※ | 「はと科」 | (31) ひばり |
| 「はやぶさ科」 | (20) きじばと | 「つばめ科」 |
| (8) ちごはやぶさ | 「ほととぎす科」 | (32) つばめ |
| 「きじ科」 | (21) つつどり | 「せきれい科」 |
| (9) やまどり | (22) かつこう | (33) きせきれい |
| (10) きじ | (23) ほととぎす | (34) はくせきれい |
| 「ちどり科」 | 「よたか科」 | (35) せぐろせきれい |
| (11) こちどり | (24) よたか | 「さんしょうくい科」 |

(12) しろちどり		(36) さんしょうくい
「ひよどり科」	(48) あかはら	「めじろ科」
(37) ひよどり	(49) つぐみ	(61) めじろ
「もず科」	(50) やぶさめ	「ほおじろ科」
(38) ちごもず	(51) うぐいす	(62) ほおじろ
(39) もず	(52) おおよしきり	「はたおどり科」
(40) あかもず	(53) きびたき	(63) すずめ
「れんじゃく科」	(54) おおるり	「むくどり科」
(41) きれんじゃく	(55) さんこうちょう	(64) こむくどり
(42) ひれんじゃく	「しじゅうから科」	(65) むくどり
「かわがらす科」	(56) ひがら	「からす科」
(43) かわがらす	(57) やまがら	(66) かけす
「ひたき科」	(58) しじゅうから	(67) おなが
(44) こるり	(59) えなが	(68) はしぶとがらす
(45) いそひよどり	「ごじゅうから科」	(69) はしぼそがらす
(46) とらつぐみ	(60) ごじゅうから	
(47) くろつぐみ		

--- 以上 29科69種 (1975年3月21日現在)

※ この(7)いぬわしにはやはり説明がいる。このわしの観察は74年春に、そして75年3月11日には会員が小川目沢に調査にいった時に頭上を飛び、山の高いところの木にとまったのである。

目撃者両者とも六ヶ所でおじろわしの観察をしたことがあり、わしの概要を知っている。わしだという第一点はその大きさにある。74年の目撃は枝にとまっていたところであるが、その大きさはからすの2倍はあったといい、その枝は鳥の体重でずいぶんしなってさがっていたという。75年の目撃はとびより大きかったという。(その直後にとびを見ているので極めて正確と思われる。)第2点はくちばしである。74年の目撃は断片的に3人なのであるが、その1人が「もずみたいなくちばしだ」という、色は足も含め黄色であったという。この特長あるくちばしは猛禽類の物である。そして、とびのくちばしは黄色には見えない。では、いぬわしではないかと思われる点だが飛行の姿が一致するのである。長方形の翼、翼の先端は指状に分かれている。尾がおじろわしより長めで、しかも丸みのあること。そして色は両目撃ともとびより黒っぽい色の白い部分はみられなかったといっている。これらの点からこの鳥は「いぬわし」と思われる。野内川流域にわしが生息しているのは確実に、早急に写真撮影を成功させ専門家に同定してもらうことにしたい。(2つのワシの種類が違う事もクチバシの黄色から考えられる)

滝沢昆虫確認目録

I 甲虫類(1)

「はんみょう科」

こんわはんみょう
まがたまはんみょう

「おさむし科」

ほそあかがねおさむし
こくろながおさむし
きたまいまいかぶり

「ごみむし科」

まるがたごみむし
こがしらながごみむし
あおごみむし
まるくびごみむし
きあしぬれちごみむし

「しで科」

ほそひらたしでむし
よつぼしもんしでむし

「はねかくし科」

しらおびしでむしもどき
あおばありがたはねかくし

「はむし科」

いたどりはむし
るりはむし
やなぎはむし
あかがねさるはむし
どろのきはむし
みやまひらたはむし
ばらるりつつはむし
よつぼしながつつはむし
やつぼしつつはむし
うりはむし
よもぎはむし

「こめつきむし科」

ひめさびきこり
さびきこり
だいまようこめつき
るりつやはだこめつき
しもふりこめつき
おおくしひげこめつき
かばいろこめつき
べにこめつき
むなぐろさびきこり
おおさびきこり
おおつやはだこめつき
みどりひめこめつき
めすあかきまだらこめつき
ほそこめつき
こがたくしこめつき
ながみぞこめつきだまし
おおながこめつき

「くわがたむし科」

みやまくわがた
のこぎりくわがた
あかあしくわがた
こくわがた
すじくわがた

「せんちこがね科」

せんちこがね

「こがねむし科」

かぶとむし
あおかなぶん
せまだらこがね
まめこがね
おおちやいろはなむぐり

しろてんはなむぐり

くろまるえんまこがね
すじこがね
きんすじこがね
ひめさくらこがね
どうがねぶいぶい
さくらこがね
ひめすじこがね

「はむしだまし科」

あおはむしだまし

「つちはんみょう科」

まるくびつちはんみょう

「ごみむしだまし科」

ひめすなごみむしだまし
きまわり
にじごみむしだまし

「じょうかいぼん科」

じょうかいぼん
あおじょうかいぼん
うすいろくびじょうかい

「ほたる科」

へいけぼたる
げんじぼたる

「おおきのこむし科」

おおきのこむし

「じょうかいもどき科」

つまかおじょうかいもどき

「ひらたむし科」

べにひらたむし

「くびながむし科」

くびながむし
まだらかみきりもどき

I 甲虫類 (2)

「てんとうむし科」

かめのこてんとう
 ななほしてんとう
 おおにじゅうやほしてんとう
 てんとうむし
 ひめかめのこてんとう

「かみきりむし科」

のこぎりかみきり
 こばねかみきり
 うすばかみきり
 からかねはなかみきり
 くろはなかみきり
 にんふほそはなかみきり
 おおあおかみきり
 るりぼしかみきり
 あかねかみきり
 しろおびかみきり

ひめすぎかみきり
 よつぼしかみきり
 とげひげとらかみきり
 くろとらかみきり
 あかねとらかみきり
 しろとらかみきり
 こぶやはずかみきり
 びろうどかみきり
 やはずかみきり
 ごまふかみきり
 ながごまふかみきり
 くわかみきり
 あとしろさびかみきり
 ひしかみきり
 きっこうもんけしかみきり
 きもんかみきり
 きくすいかみきり

はんのあおかみきり
 にせりんごかみきり
 いたやかみきり
 あおかみきりもどき
 ももぶとかみきりもどき

「ぞうむし科」

おおぞうむし
 りんごこふきぞうむし

「おとしぶみ科」

ごまだらおとしぶみ
 うすあかおとしぶみ
 どろはまちよつちり
 おとしぶみ
 あひながおとしぶみ
 ひげながおとしぶみ

II トンボ類

みやまかわとんぼ
 くろいとんぼ
 おおいとんぼ
 むかしとんぼ
 ひめくろさなえ

おにやんま
 おおるりぼしやんま
 かとりやんま
 しおからとんぼ
 おおしおからとんぼ

のしめとんぼ
 みやまあかね
 あきあかね
 まえたてあかね

III セミ類

「せみ科」

えぞぜみ
 にいにいぜみ

あかえぞぜみ
 えぞはるぜみ
 ちっちぜみ

みんみんぜみ
 あぶらぜみ

Ⅳ チョウ類 (1)

「せせりちょう科」

みやませせり
だいみょうせせり
きばねせせり
ひめきまだらせせり
きまだらせせり
こきまだらせせり

「あげはちょう科」

うすばしろちょう
きあげは
おながあげは
からすあげは
みやまからすあげは

「しろちょう科」

すじぼそやまきちょう
つまきちょう
もんきちょう
ひめしろちょう
えぞすじぐろちょう
もんしろちょう
きちょう

「しじみちょう科」

おながしじみ
みずいろおながしじみ
あかしじみ

むもんあかしじみ
うらきんしじみ
うらみすじしじみ
うらくろしじみ
みどりしじみ
めすあかみどりしじみ
あいのみどりしじみ
おおみどりしじみ
えぞみどりしじみ
じょうぎんみどりしじみ
ふじみどりしじみ
からすしじみ
みやまからすしじみ
こつばめ

とらふしじみ
べにしじみ
るしじみ
すぎたにるしじみ
つばめしじみ

「たてはちょう科」

こむらさき
おおみすじ
こみすじ
みすじちょう
いちもんじちょう

あさまいちもんじ
さかはちちょう
きたては
しーたては
あかたては
ひめあかたては
ひおどしちょう
るりたては
くじゃくちょう
うらぎんひょうもん
おおうらぎんひょうもん
みどりひょうもん
めすぐろひょうもん
くもがたひょうもん
きべりたては
えるたては

「じゃのめちょう科」

ひめうらなみじゃのめ
ひめじゃのめ
じゃのめちょう
くろひかげ
きまだらひかげ
ひめきまだらひかげ

Ⅴ ガ類

「やが科」

おにべにしたば
べにしたば
じよなすきしたば

「しゃくが科」

きまだらおおなみしゃく
びろーどなみしゃく
しろつばめえだしゃく

「めいが科」

まえあかすかしのめいが

「すずめが科」

くるますずめ

VI その他

みつばち	あかすじかめむし	ひめかまきりもどき
すずめばち	ながめ	かんたん
きいろすずめばち	みかどががんぼ	
こまるはなばち	へびとんぼ	

--- 以上 233種 (1975年3月20日現在)

野内川の水生昆虫

〔蜉蝣目〕	Paraleptophlebia sp. PA (--)	Micrasema quadrilob (--)
えるもんひらたかげろう (A)	P. cinta Eaton (--)	ぎふしまとびけら (A)
なみひらたかげろう (A)	ゆみもんいらたかげろう (A)	〔積翅目〕
うえのひらたかげろう (A)	〔毛翅目〕	Brotonemura sp. (A)
ひめひらたかげろう (A)	むなぐろながれとびけら (A)	Anphinemua sp. (A)
みやまたにがわかげろう (A)	いのぷすやまとびけら (A)	にっこうみどりかわげら (A)
くろたにがわかげろう (A)	ひめえとびけら (A)	おなしかわげら科 (A)
おながひらたかげろう (A)	ひげながかわとびけら (A)	〔双翅目〕
ふたすじもんかげろう (A)	うるまーしまとびけら (A)	Protonemura sp. (A)
まだらかげろう (A)	こがたしまとびけら (A)	Anphinemura sp. (A)
おおまだらかげろう (B)	にんぎょうとびけら (A)	ゆすりか科(溪流性) (A)
あかまだらかげろう (A)	こかくつとびけら (A)	あぶ科 (B)
くろまだらかげろう (A)	きたがみとびけら (A)	〔広翅目〕
しろはらこかげろう (B)	Polycentropus sp. PA (--)	へびとんぼ (A)
ふらばこかげろう (A)	しろふつやとびけら sp. (--)	うろすじとんぼ (A)
ひめふたおかげろう (A)	きょうとにんぎょうとびけら (A)	〔蜻蛉目〕
ひめとびいろかげろう (A)	せぐろとびけら (A)	さなえとんぼ科 (A)
きいろかわあかげろう (A)	Aparania sp. AA (--)	〔鞘翅目〕
ちらかげろう (A)	おおむねかくとびけら (--)	ひらたどろむし (B)
きいろひらたかげろう (A)	Diledrona sp. DC (A)	
ふたばかげろう (A)	Leptocerus sp. LC (--)	

--- 以上 7目54種

※ 判定 A:汚染非耐認種 B:汚染耐認種 --:不明

水質判定に関する詳しいことは青森高校生物部機関紙「やぶなべ」第20号参照のこと

野内川の植物

単子葉類

「らん科」

のびねちどり
ぎんらん
ささばぎんらん
えぞすすらん
あけぼのしゅすらん
みやまうすら
じがばちそう
さるめんえびね
えびね
さいはいらん
しゅんらん

「ゆり科」

しおで
さるとりいばら
つくばねそう
えんれいそう

まいづるそう

ゆきざさ
ちごゆり
ほうちゃくそう
みやまなるこゆり
ぎょうじゃにんにく
かたくり
のびる
おおうばゆり
やぶかんぞう
やまじのほととぎす
おおしゅろそう

「いぐさ科」

い
すずめのやり

「つゆくさ科」

つゆくさ

「さといも科」

みずばしょう
ひろはてなんしょう
こうらいてなんしょう

「かやつりぐさ科」

ほたるい
えぞあぶらがや
かやつりぐさ

「いね科」

かもじぐさ
すずめのかたびら
すずめのとつぼう
ちからしば
えのころぐさ
おぎ
すすき

双子葉類(1)

「きく科」

のげし
おにたびらこ
はまにがな
せいようたんぽぽ
えぞたんぽぽ
せんぼんやり
さわあざみ
のあざみ
めたからこう
やぶれがさ
よもぎ

おとこよもぎ
のこぎりそう
あめりかせんだんぐさ
ふき
のぶき
かわらははこ
ちちこぐさ
ひめじょん
ひめむかしよもぎ
のこんぎく
よつばひよどり
おなもみ

やくしそう

ぶたくさ

「ききょう科」

つりがねにんじん
みぞかくし
そばな

「うり科」

きからすうり

「あかね科」

かわらまつば
やえむぐら

双子葉類(2)

「おおばこ科」	きせわた	「りんどう科」
へらおおばこ	きらんそう	あけぼのそう
おおばこ	じゅうにひとえ	つるりんどう
「くるまばそう科」	「むらさき科」	「さくらそう科」
つるありどうし	ほたるかずら	おかとらのお
「しそ科」	きうりぐさ	「いちやくそう科」
くろばなひきおこし	「ひるがお科」	いちやくそう
なぎなたこうじゅ	ひるがお	ぎんりょうそう
かきどおし	はまひるがお	べにばないちやくそう
くるまばな	「ががいも科」	
おどりこそう	がかいも	

離弁花 (1)

「せり科」	すみれさいしん	しろつめくさ
おおちどめ	「おとぎりそう科」	しろばなしながわはぎ
みつば	おとぎりそう	やぶまめ
やぶじらみ	「つりふねそう科」	くず
やぶにんじん	つりふねそう	「ばら科」
せり	きつりふね	きんみずひき
ぬまぜり	「つげ科」	きょうがのこ
ししうど	ふつきそう	おおだいこんそう
あまにゆう	「かたばみ科」	ひめへびいちご
「うこぎ科」	かたばみ	きじむしろ
うど	「ふうろそう科」	「ねこのめそう科」
とちばにんじん	げんのしょうこ	やまねこのめ
「あかばな科」	「まめ科」	「ゆきのした科」
あかばな	せんだいはぎ	やぐるまそう
おおまつよいぐさ	くさねむ	だいもんじそう
まつよいぐさ	めどはぎ	ふきゆきのした
うしたきそう	みやこぐさ	「あぶらな科」
「すみれ科」	ぬすびとはぎ	なずな
おおばきすみれ	やまはぎ	こんろんそう
たちつぽすみれ	くさふじ	みずたがらし
あおいすみれ	あかつめくさ	たねつけばな

離弁花 (2)

はたざお	きくぎいちげ	すいば
ゆりわさび	のからまつ	ひめすいば
いぬがらし	からまつそう	いぬたで
「けし科」	きつねのぼたん	いたどり
えぞえんごさく	「なでしこ科」	おおいたどり
たけにぐさ	なでしこ	「うまのすずくさ科」
くさのおう	つめくさ	うすばさいしん
むらさきけまん	みみなぐさ	「いらくさ科」
「めぎ科」	うしはこべ	みやまいらくさ
きばなのいかりそう	みどりはこべ	あおみず
るいようぼたん	「べんけいそう科」	うわばみそう
「きんぼうげ科」	つるまんねんぐさ	あかそ
やまおだまき	「すべりひゆ科」	こあかそ
おくとりかぶと	すべりひゆ	むかごいらくさ
しらねあおい	「あかざ科」	ほそばいらくさ
おうれん	あかざ	「どくだみ科」
やましゃくやく	ほそあおげいとう	どくだみ
さらしなしょうま	「たで科」	「せんりょう科」
くさぼたん	みずひき	ひとりしずか
にりんそう	ぎしぎし	ふたりしずか

シダ植物

「とくさ科」	くじゃくしだ	りょうめんしだ
すぎな	「しのぶ科」	ならいしだ
「はなわらび科」	やまそてつ	おしだ
ながほなつのはなわらび	「おしだ科」	しけしだ
「ぜんまい科」	くさそてつ	ほそばしけしだ
ぜんまい	こうやわらび	「ししがしら科」
やまどりぜんまい	いぬがんそく	ししがしら
「こけしのぶ科」	こがねしだ	「ちゃせんしだ科」
こうやこけしのぶ	つるでんだ	とらのおしだ
「いのもとそう科」	じゅうもんじしだ	こたにわたり
わらび	しのぶかぐま	

--- 以上 216種 (1975年3月30日現在)

=====
 みちのく有料道路反対資料 野内川流域の生物、第一報

編集者 田中洋一

発行 野の会 事務局

1975年4月5日発行

協力 青森高校生物部[ABC]

野の会々員のおもな研究分野（この資料における物）

哺乳類	……	木村帝一
両性・ハ虫類	……	小笠原和弘（協力 伴:ABC）
魚 類	……	田中洋一
鳥 類	……	田中洋一（協力 梅内:ABC、安田:野鳥の会）
昆 虫	……	三橋 渡（協力 石沢:ABC）
水生昆虫	……	小笠原和弘（協力 佐井:ABC）
植 物	……	（協力 加賀谷康人:ABC）

みちのく有料道路建設反対運動の経過

'74	11.24	北八甲田有料道路 東日報ケイサイ
	12. 2	東奥日報明鏡投稿「八甲田有料道路の問題点」
'75	1. 4	〃 「北八甲田有料道路反対・野内川の保全を」
	1. 6	「野内川流域の自然の保全に関する陳情書」 県知事に提出、1.4 に環境庁に郵送
	1.13	「みちのく有料道路 心配な野内川の自然」 毎日
	1.24	「 〃 県が徹底調査」 読売 環境アセスメントについて
	3. 5	県議会に請願書提出 「北八甲田有料道路建設中止に関する請願書」
	3. 7	市議会に 〃 「建設反対に 〃 」
	3. 8	朝日、毎日、読売、東日報 各紙に請願書がケイサイ
	3.12	市議会 総務文教常任委員会 継続シンサ
	3.13	県議会 土木公営企業 〃 〃
	3.10,17	青森市自然保護の会と会合、運動方針決定
	3.15	県自然保護の会理事神さんと会合
	3.下旬	反対資料作成 前資料と再編集、植物を加える
※ 追加	1.31	「水資源か有料道路か」 毎日 市水道局ニガイ顔
予定:	4月27日	市自然保ゴの会との観察会
	5月24、25日	JONC 日光
	大会参加(全国自然保ゴ連合)	8月23、24日 自然保護展 東日報ホール?

◎ 野の会 事務局（住所等 省略）